

## 大学出張講義行われる（6月22日(水), 25日(土)）



こんなに「心」について考えたのは初めてでした  
結局は「バランス感覚」なのです、この世は  
講義は私の価値観を大きく変化させてくれました  
人間の思考や思惑を超えた何かが厳然とあって、  
それが操作して左右しているのではないか

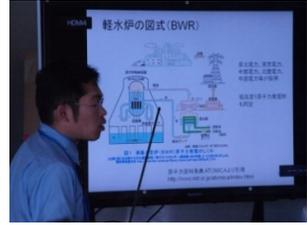


去る6月22日(水)と25日(土)の2日にわたって、2年生を対象として大学出張講義が行われました。設定された20の講座の中から、21日には1講座、25日には2講座まで選択することが可能でした。理系は理系の講座の中から、文系は全ての講座の中から各自の興味や関心に応じて事前登録を行い、平生の授業時間に比べると倍の1講座あたり90分の講義を受講しました。20の講座に名乗りを挙げてくださった先生方は、大阪大学や神戸大学を初めとしたいずれもその方面の第一人者で、日頃の授業ではなかなかたどり着けない「そこ」に触れたり、新たな考えを示唆されたり、また当然と思っている事柄のウラに潜んでいる「もの」に愕然としたりと、実に刺激的な90分を味わったようです。そして、今社会が直面している様々な問題や困難に対して、自分の力を役立てるべく、将来の方向性を考える一助ともなって、そのためには先ず自分の眼前のこなすべきことから逃げないとの決意をもった生徒も多いようです。

### 講師と講義内容一覧

	氏名	大学	学部	テーマ
1	丸田 健	大阪大学	人間科学部	「心」について哲学的に考えてみる
2	大津留 厚	神戸大学	文学部	青野原捕虜収容所の世界史
3	小笠原 博毅	神戸大学	国際文化学部	スポーツのメディア文化論
4	三崎 秀央	兵庫県立大学	経営学部	経営学でポジティブな意思決定
5	楠本 真二	大阪大学	基礎工学部	ソフトウェア開発を可視化する
6	高木 慎吾	大阪大学	理学部	葉緑体は動く(仮)
7	真鍋 勇一郎	大阪大学	工学部	原子力発電について
8	藤谷 秀雄	神戸大学	工学部	地震と建築
9	小野田 光宣	兵庫県立大学	工学部	磁石で電気をつくる
10	千代延 大造	関西学院大学	理工学部	確率論.....「たまたま」を科学する
11	長田 典子	関西学院大学	理工学部	本物のピアニストをCGで作ってみよう~デジタルメディアと感性情報学~
12	本多 啓	神戸市外国語大学	外国語学部	be going to はどのような仕組みで未来を表わすのか
13	中野 幸紀	関西学院大学	総合政策学部	知識産業社会の現状と課題
14	笹本 幸祐	関西大学	法学部	「法と経済」理論による考え方 - 経済学を法学に生かす
15	畑 吉節未	神戸常盤大学	保健科学部	災害時に看護が果たす役割
16	芝井 広	大阪大学	理学部	太陽系外惑星を探す
17	奈良 敬	大阪大学	工学部	橋のルネッサンスと新しいデザイン技術を目指して
18	土佐 幸雄	神戸大学	農学部	植物医学と農薬
19	吉田 晴彦	兵庫県立大学	工学部	半導体って何だろう？
20	鶴田 浩章	関西大学	環境都市工学部	セメントの不思議

# 講義風景



## 1. 大阪大学人間科学部 丸田 健 先生

今回の講義のテーマである「心」について考えるということは、とても興味深いものでした。一番印象に残っているのは、現在目に見えている世界は「幻」かもしれないということでした。自分が今現在生活している空間も現実にある本当のものではなく、ただ「心」がそう思わせているにすぎない「幻」だとしたら、実際は自分の存在すら曖昧になるし、友達と喋ったり語り合ったりなどと言うことも、実際にはしていないということになります。これは面白いと同時に不安にもなる状況で、たとえば「記憶」などもどうなってしまうのだろうかと気がかりです。

また、「魂に対する態度」というのも興味深いものでした。普段何気なく生活している時には、人間以外のものに「心」があるなどとは考えもしていませんでした。ところが、実はある。そう考えてみると、何とも思わなかった今までの見方とは異なる見方が生まれ、刺激的な生き方も出来るのではないかと思われます。さらに、「人の心は態度から生まれる」との指摘は正直驚きでした、逆ではないのかと。そう思っていることが態度に出るのではなく、態度や行動がそうだから、そんな心になるということです。生活の様子=心ということになるから、実に心はいろんな人から見られているのだと思いました。だから、意識しないといけないのです。こんなに「心」について考えたのは初めてでした。

## 2. 関西大学法学部 笹本 幸祐 先生

「法学と経済学とを融合させて何を考えるのだろう」、そう思いながらも一番この講義を楽しみにしていました。「法学」というものにつまとう固いイメージ、一方「経済学」は欲望を正と見なし、利益追求こそ人間の行動というイメージがあります。どちらのイメージもこの講義を聴いて一変しました。

今回の講義は一口で言うと「効率性と公平性の両立」ということでした。効率性を求めすぎると誰か（何か）が過重な負担を強いられている場合がある。一方、公平性を求めすぎると効率が落ちる。双方共に成立を図るのは難しいが、いつも隣り合わせにあるこの二者の関係を、具体的な例示で説明していただいたので、自力で考えながら理解することができました。二者の兼ね合いを何を基準に考えるか、それは「社会全体がハッピーになること」だとの言葉に、心を動かされました。人は「公平」を求めるけれど、その公平も状況や立場などが変われば、必ずしも「公平」とはいえない場合がある。どうしたら社会全体がハッピーなのかを、法律的にかつ経済的に「バランスよく」考えるということを教わりました。もう納得しっぱなしでした。日常の細々したシーンにもこの考え方は応用できるはずで、結局は「バランス感覚」なのです、この世は。さらに、自分の考えを相手に伝えて了承を得るということ、これもバランスを生かそうとすれば必要です。バランスをとっていくらいいアイデアを出しても、それに対する賛同を得ないと実際に行使できず、効力も期待できない。「説得力」の必要性も学びました。だから、今の自分にとっては「勉強をちゃんとすること」、それに尽きます。

### 3. 神戸大学農学部 土佐 幸雄 先生

「農薬 = 農業で消毒や病害虫の駆除などに用いる薬」( a u 携帯辞書)

これだけを見ると、幼い頃に擦り傷に消毒液を振りかけられて痛みに耐えた記憶と、殺虫剤を振りかけられてひっくり返って脚をひくつかせる蜂の姿とが重なり合い、複雑な思いと共に悪いイメージしか浮かんでできません。さらに、実際に残留農薬などというぞっとする問題が耳に馴染んで久しいこの頃、「農薬=危険」という意識しかもてませんでした。それなのに、「ありがたい、ありがたい」と祖母は言いながら私に農薬をふらせています。「農薬は使用すべきではない」と思いながら、現実には納得できないままでも農薬をふっている、そんな矛盾に悶々として考え込み、作業の途中で溝に落ちたりもしました。その一方、もしも除草剤(農薬)がなければ、田圃が雑草(稗など)に埋め尽くされてしまうのは明白なことなので、「ふりたくないけどふらざるを得ないストレス」は、自分で言うのも何ですが、相当なものでした。しかし、それも要らぬ苦労だったようです。講義で聴いた「薬と毒とを分けるのは、用量である」との言葉は、一瞬にして私の煩悶を解消してくれ、感動すら与えてくれました。毒の代名詞といってもいいような青酸カリの類はその使用量云々などというレベル以前ですが、農家ならどこでも日常卑近な毒である「農薬」も、その用量が最大重要事項であるとは、当然すぎることはありません。人間に関して、「腹八分目」しかり、「一杯の酒」しかりであります。

講義は私の価値観を大きく変化させてくれました。我ながら価値観が変わったことを面白く感じ、おかげさまで、生ぬるい田圃に入って稗を引っこ抜くときに、悪態をつくのではなく、感謝できるようになりました。昔ならもっと手間暇がかかったであろうに、散布しやすい除草剤や素っ裸の稲を保護する様々な「薬」が開発・改良されて私たちの手元にあります。そんな「薬」を作ってくださった方々や、農業への理解を深めて下さった土佐先生にも感謝したいと思います。

### 4. 大阪大学理学部 芝井 広 先生

火星に水( $H_2O$ )があったということは知っていましたが、生命の痕跡まであったとは驚きでした。また、火星だけではなく、多くの星にも水( $H_2O$ )が存在しており、それは生命体の存在を示唆する可能性につながるというお話によって、地球外生命体への関心も喚起されました。何の根拠もありませんが、水( $H_2O$ )は特別なものであると思っていたので、宇宙のあちこちに存在することは正直意外でしたし、太陽系の多くの星に水( $H_2O$ )があるのなら、太陽系以外の 100000000000 以上の星には必ず水( $H_2O$ )は存在し、数多くの生命体に遭遇できるのではないかと期待に胸がふくらみました。しかし、予想できる個数は 2.5 に過ぎないとか。水( $H_2O$ )だけでは必要十分ではない生命というもの、希少さ・かけがえのなさ・ありがたさを感じました。

こう感じてみると、「生命とは何か」「なぜ生命が存在するのか」という哲学的な疑問も抱きます。何もかもが自分たちの考え得る範囲で起こり、説明がつくものではありません。人間の思考や思惑を超えた何かが厳然とあって、それが操作して左右しているのではないかとも思え、宇宙の偉大な力・神秘も感じます。自分もこんな研究をしてみたいと強く思うようになりました。

自分が聴講したのは「物理」という学問についてのはずでした。しかし、話を伺ったのは「生命体」のこと。物理と生命とは自分の中では今まで結びつくものではありませんでした。何か 1 つを研究するにしても、様々な分野の知識が必要であることを感じ、自分も知識に関して幅の広さを身につけなければと思いました。